

安全でおいしい地下水のまち集まれ!

東川から発信、来年全国水サミット開催へ

地下水、湧水などを生活用水として活用している全国各地の自治体が集まって、来夏以降、全国水サミット「安全でおいしい地下水サミット」(仮称)が開かれることになりそうです。環境保全など環境問題や安全性への取り組みが注目される中、人の暮らしに欠かせない「水」をテーマに、水資源保全への意見交換などを通して、水の活用の仕方などを話し合う予定です。

「おいしい水と、うまい空気、人とお米が育つまち」がキャッチフレーズの東川町が呼びかけて計画が進んでいます。

今年5月、「安全でおいしい地下水サミット」(仮称)の取り組みについて」と題して、本町が地下水、湧水などを生活用水としている全国53自治体にサミット開催についてアンケート調査を行い、14市町村から賛意をいただきました。

その中から、呼びかけ人として中核的な役割を担ってもらえる自治体として、熊本県上益城郡嘉島(かしま)町、福島県双葉郡川内(かわうち)村の2町村が浮上。開催準備に向けて両町村関係者と初の意見交換をするため、松岡市郎町長、浜辺啓町議会議長ら町理事者、町議会代表者7人が10月26日から4泊5日で両町村を視察訪問しました。

最初に訪れたのは、川内村(遠藤雄幸村長)。上水道普及率は4・3%

(本町は2・1%)。湧水を利用してイワナ養殖を行い、養殖場に隣接している第3セクターの和食料理店で名物のイワナ料理を提供しています。

次いで訪れた嘉島町(荒木泰臣町長)は、上水道がまったく整備されておらず、町内全域で地下水を利用しています。

地下水など伏流水の水量の多さは群を抜いており、阿蘇山ろくろの六嘉湧水群・浮島は、平成の名水百選に選定されています。日量約35万トンもの雪解け水、雨水が湧き出しています(旭岳湧水は日量約6千600トン)。

またサントリー九州熊本工場が立地しており、日量約3千500トンの地下水を利用して、ビール、清涼飲料水、「天然水・阿蘇」(九州エリアで販売)を製造しています。

両町村で意見交換をした一行は、今後サミットの開催形態、時期、場所、参加自治体の決定、話し合いのテーマなどを関係自治体で協議することになっています。

◇ 国内ではこれまでに、水に関する地方サミットとして3つの会合が各地で開かれています。

①「全国水源の里シンポジウム」(昨年10月、京都府綾部市で第1回シンポジウムを開催) ②全国水源の里連絡協議会主催。

②「源流シンポジウム」(今年8月、長野県木祖村で第9回シンポジウム開催) ③「全国地下水サミット」(2007年、喜界島で第4回大会を開催)

③「全国地下水サミット」(2007年、喜界島で第4回大会を開催) ④ 川内村、宮古島市、犬山町、御高町、喜界町の5市町で持ち回り開催。今年の開催は休催。



川内村での協議



嘉島町での協議



イワナ養殖場に隣接している和食レストラン(川内村)



六嘉湧水群の浮島(嘉島町)